# 岡崎名城めぐり

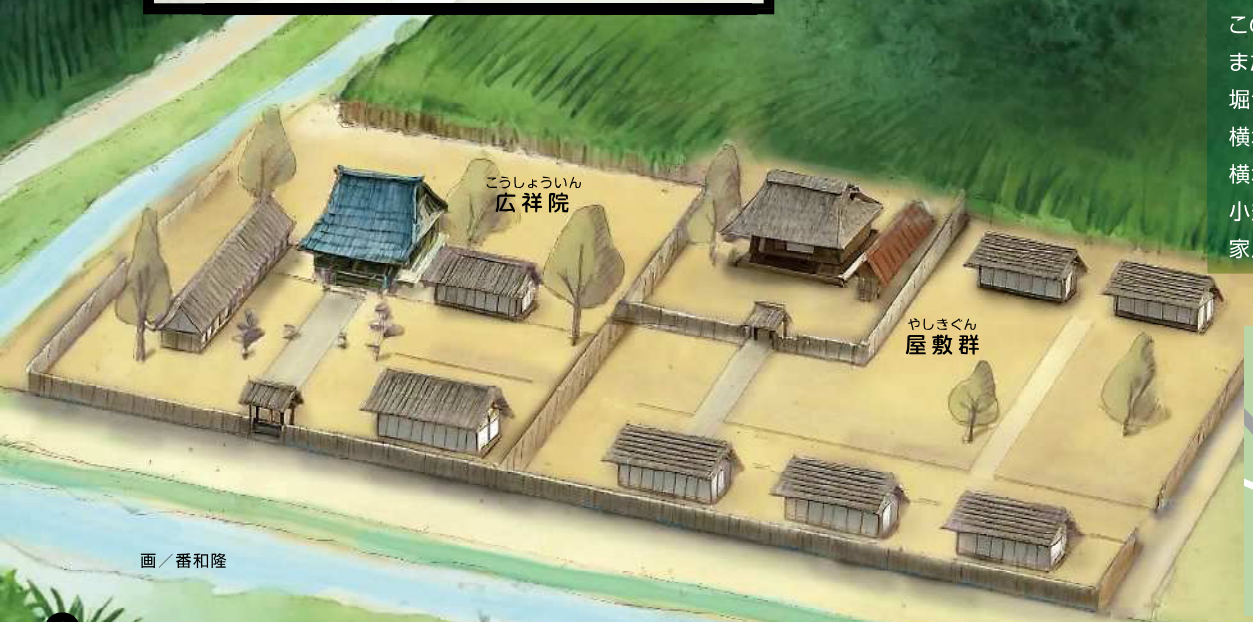


岩津城跡　撮影／井上英世志

# 岡崎市の城

岡崎市を代表する城である岡崎城は、
徳川家康公が生まれた城として全国的に有名です。
巨大な堀や多様な石垣、復元された天守・櫓は見る者を魅了し、
複雑かつ巧みな縄張り（城づくりの設計）は城好きには必見でしょう。
市内には岡崎城以外にも150カ所以上の城が築かれており、
松平・徳川氏の関与した城が多いことも特徴です。
それらのほとんどが戦国時代に築かれた「土の城」ですが、
縄張りには岡崎城にも共通するような構造を見つけることができ、
岡崎の城を知ることは「家康の城」を知ることにつながります。
これから紹介する3つの山城を見た後、再び岡崎城を訪れてみてください。
今までとは少し違った見方ができるようになっているはずです。

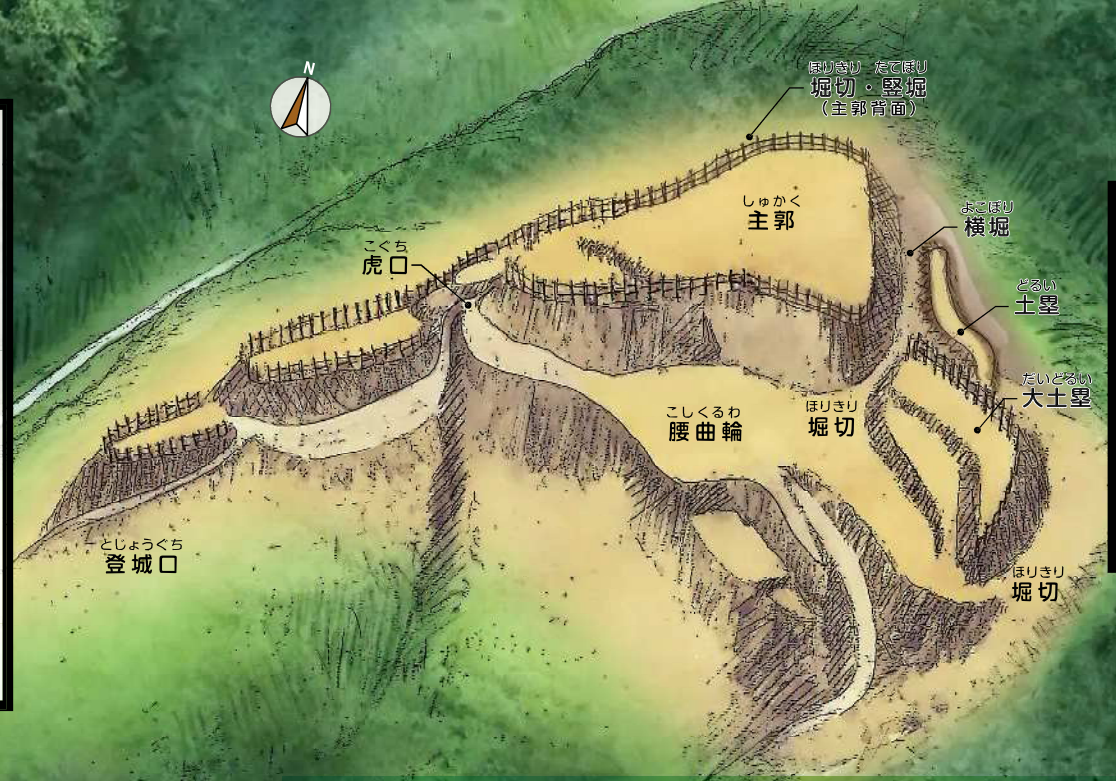
各城の周辺には名所旧跡や食事処など、
気軽に立ち寄ることができる観光スポットもたくさんあります。
ぜひ一緒に巡ってみてください。




画／番和隆



# 日近城跡




日近城は1400年後半に、この地域の領主・奥平氏が築いたとされます。
城は山頂の主郭から西方向に3段ほどの曲輪が連なるつくりでした。
1500年後半に奥平氏が徳川家康公の配下になると、武田氏に対する防衛のために改修されました。
この改修により主郭西側の腰曲輪、大土塁とその南北の堀切などが整備されました。
また、堀切の前に掘られた横堀は、土塁とセットになり（武者隠し）、
堀切への侵入を防ぐ役割を担いました。
横堀は主郭裾をめぐり、さらに堀切へとつながり、堀切の先は竪堀で遮断されます。
横堀や堀切の先を竪堀で遮断する手法は「家康の城」の城郭の特徴です。
小規模ながら三河地域では最も発達した段階の城であり、
家康公により改修されたと考えられています。

観光コースのくわしい情報はこちら

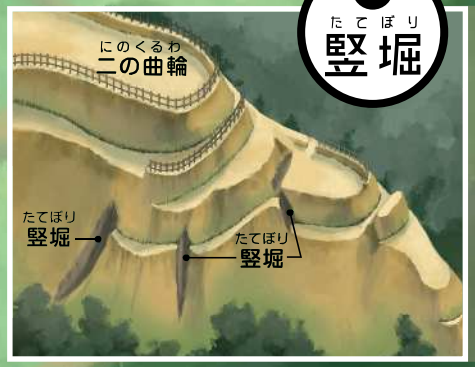


# 山中城跡

山中城は岩尾山（医王山）山頂にあり、愛知県内随一の広さを誇ります。
いつ、誰が築いたのか不明な点が多いですが、現在残る縄張りは1500年後半、
戦国時代末期の家康公の改修によるものと考えられています。
城の境界に当たる場所には堀切を配置して尾根筋を遮断したうえで、曲輪斜面を横に
伝って移動するのを防ぐために竪堀を備えることでより一層守りを固くしていました。
また重要な出入口には馬出を配置しています。多方面からの敵の侵入を想定
しながらも、進路を限定させて、守りやすく攻めにくい構造になっています。
随所に見られる細心かつ厳重な縄張りは「土の城」の真骨頂ともいえます。



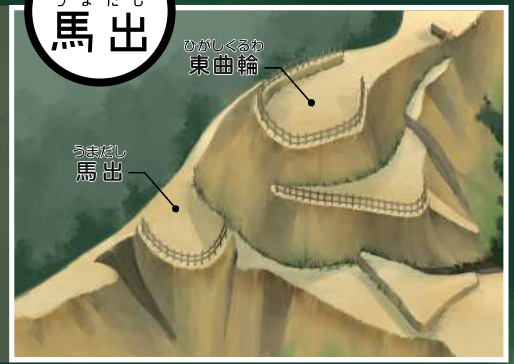

## 1 竪堀（たてぼり）




敵は曲輪の出入口（虎口）を正面
から攻めてくるとは限りません。
曲輪のすぐ下の急な斜面を
登ってくる敵もいます。
そうした斜面を登ったり、
横に移動してまわり込もうと
する敵に対して、
斜面の横方向へ
移動するのを妨ぐために
竪堀が築かれました。




## 2 馬出（うまだし）




馬出は東曲輪の前面に位置し、
北側と東側の侵入路の結節点に
位置する半円形の小さな曲輪です。
敵は馬出を回り込まないと
先へは進めませんが、
馬出やさらに上の東曲輪にいる
守備兵から弓矢や鉄砲を浴びる
ため侵入は極めて困難です。
小規模なため見落とされがちですが、
とても重要な攻守の要です。

画／七草

# 岩津城跡

岩津城は1400年前半に、松平郷から岩津に進出した松平泰親・信光の時代に築かれたとされます。
築城当初の姿は不明ですが、現在の縄張りは家康公の改修によるものと考えられています。
戦国時代の城の要素（土塁・土橋・横堀・竪堀・馬出・枡形・櫓台）がほとんど揃った「土の城」の到達点といえる城跡です。
横堀や馬出はそれぞれ日近城跡と山中城跡でもみられますが、岩津城跡ではその機能が高度化・複雑化しています。
そして岩津城からさらに戦国時代の岡崎城へと「家康の城」は発展していきます。




画／Lea

## 周辺スポット観光コース




観光コースのくわしい情報はこちら

## 土橋（どばし）



土橋は主郭正面の入口となる狭い通路です。
両側に幅と深さのある空堀があるため、敵は土橋から攻めるしかありません。
土橋の手前には難攻不落の馬出があり、また土橋は主郭土塁から射撃の的になります。

# 戦国時代の岡崎城

このイラストは、家康公が関東移封になる以前（戦国時代）の「土の城・岡崎城」を復元したものです。
岡崎城は1450年頃、西郷氏が初めて砦を築き、1530年頃に家康公の祖父・
松平清康が城主になって以降、松平・徳川氏の本拠の城として発展していきました。
城は乙川（菅生川）に張り出した台地の先端を利用して築かれています。
本丸から北東方向は台地が地続きとなることから、幾重にも空堀を
掘ることで防衛線としました。本丸・二の丸・東曲輪が主要な
曲輪であり、それぞれの侵入路に攻守の要である馬出を
配置したつくりとしました。
さらに岡崎城の東には馬出を備えた「新城」があり、
東側の低地部からの侵入にも備えていました。
三河・浜松時代の家康公は今川氏、武田氏との
戦いの中から最先端の築城術を学び、
取り入れながら自分のものとして
「家康の城」を確立していきました。
その到達点が「土の城・岡崎城」であり、
その前身が日近城、山中城、
岩津城に他なりません。




画／松岡徹

**清海堀（せいかいぼり）**

岡崎城の最初の築城者・西郷頼嗣の
法名「清海入道」から名付けられた堀で、
主に本丸北側の堀のことを指します。
本丸土塁から堀底まで10m以上の深さが
あり城内でも最大級の規模を誇ります。



画像提供／岡崎市教育委員会

岡崎城周辺の
観光スポット情報は
こちら

「土の城・岡崎城」が天守や櫓、石垣がそびえる城へと変化したのは、
1590年に家康公が関東に転出し、新たに豊臣武将・田中吉政が城主となってからのことです。
田中吉政は岡崎城を大改修し、戦国時代の「新城」を岡崎城に取り込んで備前曲輪とし、馬出に大手門を
配置し（後に浄瑠璃曲輪に移動）、さらに城下町の外郭を堀（総堀）で囲い込んで巨大な城としました。
城の規模もさることながら、石垣が多用され、瓦葺の天守や櫓が建てられたことで
城の景観は一新されました。また、城下に東海道を引き入れ、くねくねとした屈折の多い街道筋は
「東海道二十七曲り」と呼ばれました。城下の防衛とともに、街道筋に多くの店舗が立ち並ぶことができ、
経済効果も考えられたつくりとなっています。岡崎城はこの地域における
「土の城」の到達点であり、同時に本格的な「石垣の城」の出発点にもなりました。
現在の岡崎城公園に江戸時代の建物はありませんが、石垣は当時のまま残っています。
ぜひ石垣めぐりも楽しんでみてください。

## 岡崎城の石垣

岡崎城の周辺では石垣を築くのに適した花崗岩が豊富に産出しました。
最も古い石垣は石材を山からそのまま運んできて積み上げた「野面積み」ですが、
次第に石材を適度な形に割って積む「割石積み」や、割石をさらに加工した
「切石積み」へと発展していきます。
石垣の発展過程を知ることができるのも岡崎城の大きな魅力の一つです。
石垣づくりが一段落した1600年代後半には石灯籠などの石工業が盛んとなり
「石都岡崎」と呼ばれるようになりました。


野面積み


割石積み


切石積み

# 江戸時代の岡崎城




画／松岡徹

# 岡崎市内の城跡




パンフレットで紹介している城

遺構・看板等がある城




岡崎おでかけナビ特集ページはこちら

## 【岡崎の城を巡る際の注意】

- 見学の際、堀や土塁などの遺構を壊さないように注意してください。
- 道中には険しい箇所があります。万全な体調のもと、天候や装備（トレッキングや軽登山）を考えて巡ってください。
- 野生動物や危険な虫（イノシシ・マムシ・スズメバチ・マダニ・ヤマビルなど）に対して、事前対策と十分な注意をお願いします。
- 山中での火器類の使用は禁止されています。山火事の危険がある行為（タバコの吸い殻を捨てるなど）は絶対にしないでください。
- ごみは必ず持ち帰ってください。

岡崎市観光推進課 ☎0564-23-6216／（一社）岡崎市観光協会 ☎0564-64-1637（9：00～17：00／年末年始は除く）